

研修名 支援を必要とする子どもの保育

平成30年7月26日(木) 13:30~16:00

講演 「保護者や家庭に対する理解と支援」

「地域の専門機関等との連携及び個別の支援計画作成」

「小学校との連携」

講師 舞鶴こども療育センター 四方 あかね 氏

1 講演要旨

1) 保護者や家庭に対する理解と支援

① 保護者の気持ち、しんどさ、価値観、立場を理解しなければ的外れな助言となる。価値観が違うことで話が平行線になる。

・精神的なしんどさ…何度も繰り返しおなじことを言わせる。他人に謝る、説明する、隠す。家族に責められる。将来への不安。

・身体的、物理的なしんどさ…睡眠障害や医療ケアで睡眠不足。送迎が必要。排泄の後始末や特別な食事への手間。切り替えが出来ない。予定通りに進まない。

・価値観…多動性のある子ども→元気があってよい

衝動的な行動→知的好奇心が強い

学習障害の恐れ→幼児期から勉強をしなくてもよい

② 伝え方はとても大切である

・出来ないことを言われると子育てに自信が持てなくなる。

・否定的な面だけ言われると子どもに対して否定的感情が沸く。

・前向きになれるような伝え方(出来なかったことをそのまま伝えるのではなくどう支援したかを報告する。)

2) 地域の専門機関との連携及び個別の支援計画

① 発達面に有用な情報 現状

・粗大運動(園庭の遊具で遊べるか、ボールを投げられるか蹴れるか、片足で立つなど。

・微細運動(手と目の協応…スプーン、お箸、鉛筆を使えるか。はさみ折り紙が使えるか

・生活習慣(生活リズム、排泄、食事、更衣)

・遊び(つもり、見たて遊び、積み木など左右対称、色別に作る繰り返し)

・言葉の理解と表出(しりとり、なぞなぞ…発音や語彙、単語をもとに話題作り

・対人関係・情緒の安定・注意集中力・衝動性のコントロール

- ・感覚の鈍感さ敏感さ。
 - ・家庭環境や母子関係で気になること。
- ② 質の高い紹介状には経過が記されている。
- ・ツール基準ではなく観察に基づいた日々の様子を記す。

3) 小学校との連携

① 就学相談における留意点

- ・発達の凸凹が大きいと発達指数は本当の知能を表さない。
- ・緊張しやすい子と集中しにくい子の評価には限界がある。
- ・今までの経過から年長の1年間の伸びを予測する。
- ・入学してみないとわからないこと部分に対して、柔軟な支援体制を準備しておく。

2 感想

日々の保育の中で、発達面で支援が必要だと感じる子どもが増えてきています。私たち保育士は、診断を下す立場でないのですが日々子どもたちと接する中で色々な姿を見ているので重要な情報源だと感じています。ただ、具体的な支援の仕方を知っている保育士は少なく、「これでいいのか？」と手探り状態が現実です。意識の違いもあるのは確かです。そして、忙しさの中で個別の支援の仕方を統一して話し合うこともなかなか難しくもあります。各園に発達の専門的な支援者が月1回でも来ていただき、個別の支援計画を協力して作っていただければ専門的な立場の助言として統一した方向性で支援出来、又不足した部分は計画しなす、PDCA サイクルを行うことが出来、子どもたちひとりひとりの未来の可能性を確立できるのではと感じました。

(記録 京田辺市立草内保育所 巽 陽子)

